

Title	編集後記
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1977
Jtitle	哲學 No.66 (1977. 9) ,p.188- 188
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000066-0188

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「哲学・第66集」をお届けします。今回は、英文論文が4編も集まり、いささか異例の体裁をとることになりました。その分いくらか予算をオーバーしましたが、年2回(春・秋)の開催を予定していた「公開シンポジウム」のほうで、“入試問題漏洩事件”の騒然とした状況のため、結局、秋にだけ1回ということになりましたので、その分で埋め合せが出来そうです。私たちとしては、ホッとしている次第です。

* * *

前号の「第65集」より、編集の方針を少しばかりかえました。まず、表紙をかえたこと。これは主として、経費節減の一策として考えられたのですが、「何でもかえればよいというものではないだろう」とのおしかりや「何んともシラけた現代を象徴しているようで結構な表紙だ」との皮肉(?)をいただきました。変更(改悪?)の第二点は、欧文アブストラクトを論文の一番最初に出し、またその長さを規定(200語)し、表題・執筆者氏名およびその簡単な紹介とともに、1頁を構成するようにしたこと。第三に今号から巻末に「例会」の研究発表要旨を収録することにしました。このように例会活動の成果を活字に留めることにより、会員間の討論をさらに活発なものに

したいと願っています。

* * *

以上、いささか弁解がましいことを述べましたが、要は、印刷や編集の体裁ではなく、論文の内容だと思ふのです。

「哲学」が各方面各分野をリードしうる学術雑誌になってゆくことを願って、会員諸氏よりの“力作”を期待する次第です。なお、今年度より年2回刊行を復活させました。長い論文を2回に分けて発表することも可能になりました。次の第67集の原稿締切は10月末日で、刊行は明年1月末の予定です。募集論文は、原則として、和文論文の場合、400字詰原稿用紙で図(写真)・表・注・文献リストを含み48枚(本文40枚・図表その他8枚→欧文アブストラクトと併せ刷り上り22頁)です。欧文論文はA4タイプ用紙にダブル・スペースで、図(写真)・注・表・文献リストを含み16枚です。

* * *

原稿応募やその他にかんしご意見がございましたら幹事までお申し越し下されば助かります。ちなみに今年度の「三田哲学会幹事」は、樽井正義(主に「編集を担当」)、南隆男(主に「渉外」を担当)、小林ポウル(主に「庶務」を担当)、西脇与作(主に「会計」を担当)の4名です。

《樽井・南》